日蓮大聖人御書全集

浄土九品の事（じょうどくほんのこと）

新版933～939

浄土九品の事

難行・易行、聖道・浄土、雑行・正行

諸行・念仏

法然房の料簡は、諸行と念仏との相対なり

二義あり。一には勝劣、一には難易

廃立

「一に、諸行を廃して念仏に帰せしめんがために、しかも諸行を説くなり」

助正

「二に、念仏を助成せんがために、しかも諸行を説くなり」

傍正

「三に、念仏・諸行の二門に約して各三品を立てんがために、しかも諸行を説くなり」

「もし善導に依らば、初めをもって正となすのみ」

「至誠心・深心・回向発願心なり」

「大乗を読誦す」

「三種の心を発して即便ち往生す」

上品上生

「また三種の衆生有り。当に往生を得べし」

「一には慈心にして殺さず。諸の戒行を具す」

「二には大乗方等経典を読誦す」

法然房の料簡に云わく

「華厳経・方等経・般若経・法華経・涅槃経・大日経・深密経・楞厳経等の一切の大乗経は、『大乗を読誦す』の一句に摂め尽くす」

「三には六念を修行す」　六念　仏・法・僧・戒・施・天

上三品

上輩

大乗の凡夫

「第一義を解す」

大に値う

上品中生　「善く第一義において義趣を解す」

善根

法然の料簡に云わく

「華厳の唯心法界、法相の唯識、三論の八不、真言の五相成身、天台の一念三千、皆『第一義を解す』の一句に摂め尽くす」

法然の料簡

上品下生　『因果を深信す』に十界の因果を摂め尽くす」

中品上生　五戒・八戒乃至諸戒を摂め尽くす

小に値う　四阿含経・倶舎・成実・律宗はこの二品に摂め尽くす

中三品　中品中生　八斎戒

中輩

小乗の凡夫　中品下生

善人

「父母に孝養し、世に仁慈を行う」

儒教・道教はこの一品に摂め尽くす

外典三千余巻　老子経

孝経

下品上生

「かくのごときの愚人、多く衆悪を造る」

十念往生

観経

観経に云わく

下品中生

「あるいは衆生有って、五戒・八戒および具足戒を毀犯す。

かくのごときの愚人は、僧祇物を偸み、現前僧物を盗む。

下三品

下輩

悪に値う

一向□

不浄に法を説いて懺愧有ることなし」

□□云わく

「下品下生はこれ五逆重罪の人なり。しかも能く逆罪を除滅するは余行に堪えざるところなり。ただ念仏の力のみ有って能く重罪を滅するに堪えたり。故に、極悪最下の人のために、しかも極善最上の法を説く」等云々

下品下生　五逆罪の人　十念往生

選択に云わく

「念仏三昧は重罪すらなお滅す。いかにいわんや軽罪をや。

余行はしからず。あるいは軽を滅して重を滅せざるあり。

あるいは一を消して二を消せざるあり」等云々

法華経等の一切経

釈迦仏等の一切の諸仏

天台宗等の八宗・九宗

世天等

捨閉閣抛

浄土三部経・阿弥陀仏よりの外なり

安楽集に云わく

「いまだ一人も得る者有らず」

「ただ浄土の一門のみ有って通入すべき路なり」

往生礼讃に云わく

「千の中に一りも無し」

「十は即ち十生じ、百は即ち百生ず」

長楽寺　南無

一の弟子　隆寛　多念

後嵯峨法皇の御師　道観

善慧　小坂　修観

故宇都宮入道

筑紫

極楽寺殿の御師

建仁年中

一の弟子

後鳥羽院御宇

源空

一の弟子

聖光

然阿弥陀仏

法然房

法蓮

諸行往生

一条

覚明

道阿弥

嵯峨(さが)

聖心(しょうしん)

成覚(じょうかく)　一念(いちねん)

法本(ほうほん)

顕真座主(けんしんざす)　八人(はちにん)の碩徳(せきとく)

頼兼僧正(らいけんそうじょう)の御師(おんし)

園城寺(おんじょうじ)の長吏(ちょうり)

公胤大弐僧正(こういんだいにそうじょう)

浄土決疑集三巻(じょうどけつぎしゅうさんかん)を造(つく)って法然房(ほうねんぼう)の選択集(せんちゃくしゅう)を破(は)す

随機(ずいき)の諸行(しょぎょう)もて皆往生(みなおうじょう)をなすべし等云々(とううんぬん)

故宝地房法印証真の弟子

上野清井の者

定真堅者　弾選択二巻を造る。随機の諸行もて往生す

証真の嫡弟　竹中法印

宗源法印　隆真法橋

証義者　大和荘

俊範法印　椙生

三塔の総学頭

三千人の大衆

聖覚（せいかく）

貞雲（じょうううん）

隆承（りゅうしょう）

五人の探題（ごにんのたんだい）

華厳宗（けごんしゅう）

とがのおの（栂尾）

明恵房（みょうえぼう）　摧邪輪三巻（ざいじゃりんさんかん）を造（つく）る。随機（ずいき）の諸行（しょぎょう）もて往生（おうじょう）す

深密経（じんみつきょう）に依（よ）る

法相宗（ほっそうしゅう）　三時教（さんじきょう）もて一代（いちだい）を摂（おさ）め尽（つ）くし、返（かえ）って深密経（じんみつきょう）をもって法華経（ほけきょう）を下（くだ）す

般若経（はんにゃきょう）・妙智経等（みょうちきょうとう）に依（よ）る

三論宗　二蔵・三時もて一代を摂め尽くし、返って妙智経をもって法華を下す

華厳経等に依る

大乗の五宗　華厳宗　五教もて一代を摂め尽くし、返って華厳経をもって法華を下す

大日経・六はら蜜経に依る

真言宗　五蔵もて一代を摂め尽くし、返って大日経等をもって法華経を下す

天台宗　四教・五時もて一代を摂め尽くす

「県の額を州に打つ」

「牛跡に大海を入る」

伝教大師、この義を許すや不や

「夫(そ)れ、三時(さんろん)の教(きょう)は勝義(しょうぎ)の領解(りょうげ)、一了(いちりょう)の聞(もん)は義生(ぎしょう)の機宜(きぎ)なり。なお三了(さんりょう)を闕(か)く。

何(なん)ぞ一代(いちだい)を摂(おさ)めん」

華厳(けごん)云(い)わく、三論(さんろん)云(い)わく、真言等(しんごんとう)云(い)わく